



KAIHO  
会宝産業株式会社

会宝産業株式会社  
統合報告書

2026

全方位“シンカ”

# 価値創造 ストーリー

## PHILOSOPHY 経営理念

**会宝産業は、社員一人一人が、よろこびを表現し、  
お客様に信頼と安らぎの実感を提供し続け、  
自然環境との調和を計る会社です。**

### —— 私の宣言 ——

- 一、私は生涯、楽しく会宝産業で働く。
- 一、私は生涯、楽しく学び続ける。
- 一、私は生涯、楽しく己に挑戦し続ける。
- 一、私は常に、家族のことを思い、安全作業に徹する。
- 一、私は自分の夢を会宝産業で実現する。
- 一、私は会宝産業を幸せの発信基地として、  
「全世界」に良い影響を与える。

### 「経営理念」に込められた想い

人の喜びを我が喜びとする。お客様の喜びを糧に、社員一人一人が楽しく喜んで働けば、その喜びがお客様にも伝わり、お客様は安心と、信頼を寄せてくれる。この喜びの循環が、私たちが育む大自然にも影響を与え、世界の人々が平和に暮らせる調和のとれた地球環境を作るのだという創業の精神が、この理念に込められています。この礎に立って、私たちは「シンカ」し続けます。

## PURPOSE パーパス

**自動車のあとしまつを通して  
日本・世界の環境に貢献する**

地球に存在する天然資源を採取・加工して製品を生産する動脈産業の発展により、私たちの生活が豊かになりました。一方で、地球上には製品が消費された後にたくさんのゴミが溢れ、それらは環境破壊を招く大きな要因となっています。

人間の体の血液には、動脈と静脈が一体となって循環する仕組みが必要であるのと同じように、産業にも、製品を作り出す動脈産業と、要らなくなった物をただ捨てるのではなく、再利用・再資源化する静脈産業が存在することで、持続可能な循環型社会を創ることができます。

当社は、SDGsの12番目の目標である「つくる責任」と「つかう責任」に加え、「あとしまつの責任」という考えを大切にしています。静脈産業のパイオニアとして、世界に取り組みを広げることが会宝産業の使命であると考えています。

## CORE VALUE コアバリュー

**相手(お客様)に喜んでいただいた  
結果が自分たちに返ってくる  
「タライの法則」**

会宝産業は「お客様の喜びを我が喜びに。相手に喜んでいただいた結果が、自分たちに返ってくる。」という利他の精神を大切にしています。これは、すべての社員がよりどころにしている行動指針であり、日々お客様と向き合う中で最も大切な心です。

この行動指針は、「自らが得をしようと思って行動した結果は、長期的な利につながることはなく、相手に奉仕をする気持ちで行動した結果が、巡り巡って自分のためになる」という会長(創業者)の教えに基づいています。

まずは、お客様が幸せになることから考えて行動することで、自分にも幸せが訪れ、その結果、関わる人すべてを幸せにすると信じています。

## 社長メッセージ



代表取締役社長  
近藤 高行

私たち会宝産業は、このたび統合報告書2026を発行しました。

その目的は、単に情報を整理して外部に示すことではありません。まずは社員一人ひとりに、そして社会の皆さまに対して、「私たちは何者で、何を目指し、どこへ向かおうとしているのか」を、自分たちの言葉でお伝えしたいと考えたからです。

社歴が浅く、創業期や会長の想いに直接触れる機会が少なかった社員も含め、会宝産業がこれまで何に取り組み、何を大切にしてきたのかを知ること。それは社員同士の理解を深めるだけでなく、社会や取引先、将来の仲間との「つながりのきっかけ」になると考えています。私たちの業界は、決して発信力が強いとは言えません。メーカーは学生にも広く知られていますが、リサイクルや解体という仕事は、その価値が十分に語られてきませんでした。だからこそ、メディア任せではなく、自分たちが伝えたいことを、自分たちの言葉でまとめ、発信する。その意志の表れが、この統合報告書2026です。

## すべては「循環」であり、私たちはその一部である

私の中で、経営も産業も「生命体」と考えています。生まれ、活動し、役割を終えていく。しかし、それは終わりではなく、形を変えて循環し続けます。

動脈産業・静脈産業という言葉がありますが、人の身体と同じで、良いものを食べる(つくる)だけでは健全にはなりません。必ず「あとしまつ」が必要です。あえて私は、この言葉を使います。それは、モノづくりと同じだけ、あとしまつを知ってほしいからです。

今、世界は資源制約という現実の中で、綺麗事ではなく「生き残るため」にリサイクル材が必要とされています。必要なリサイクル材を安定的に確保するために、私たちに何ができるのか。私たちはその視点に立ち、動脈・静脈が一体となって循環を作り上げていく存在でありたいと考えています。

## 中期経営計画における4つの軸

私たちは中期経営計画において、

- プラットフォーム事業
- 国内循環事業
- 海外循環事業
- 変化に強い組織づくり

という、4つの軸を掲げています。

プラットフォーマーとしての原点は、創業者が築き上げてきた海外中古自動車、部品ビジネスにあります。日本は諸外国と比べて車を状態の良いまま早く手放す傾向があります。一方で、海外では日本の中古自動車部品に対して高い需要があります。日本では見向きもされなかった部品が、海外では必要とされる。そこに価値を見だし、多くの国々に販路を拡大してきました。

かつての自動車リサイクル業界では「綺麗で高単価」な国内販売に注力し、海外市場に着目していませんでした。そこで、当社は創業者が築いた海外の需要に応えるためのシステムを国内の同業者に展開し、当社のシステムに登録することで利益を高められるように取り組んできました。このボーダレスなプラットフォームにより、手間なく世界をターゲットにした取引をすることを可能にしています。

また、自動車リサイクルという誇り高い仕事を、グループ全体が一体となって共有し、その理解を深めることも、私たちの使命です。

海外での事業展開は、決して簡単なものではありません。すぐに利益が出るものでもありません。しかし、車や部品は世界中で必要とされ、資源は国境を越えて循環します。今後の資源循環を考える際、一国だけでなく地球規模でのリユース品・リサイクル材の流れを把握する必要があります。その未来を見据えて、私たちは今、挑戦を続けています。

## 経営の軸は、常に「人」

ビジネスの中でどんな戦略や戦術も、それを動かすのは「人」です。コロナ禍で外に出られない時期を、私たちはチャンスと捉え、人材教育に力を注ぎました。社員一人ひとりが、目の前のお客様に何をしたら喜んでもらえるのかを自ら考え、行動できる集団こそ、最強の組織だと信じています。

## サステナビリティ経営への向き合い方

会宝産業の事業は、創業以来リユース・リサイクルの促進によって、結果としてSDGsに結びついてきました。そして近年改めて、持続可能な企業活動のあり方が求められています。

人は、自然の中で生かされています。資本主義に偏り、自分たちの都合だけを優先してきた結果、人がその自然環境に悪影響を及ぼしてきた側面があります。自然環境なくして、私たちは事業を営めません。その原点に立ち返るために、私たちは、自然・気候関連開示フレームワーク(TCFD・TNFD)を、今後極めて重要な経営課題と位置づけています。

## 変わらず守るものと、

## 2026年「全方位“シンカ”」への想い

私たちの組織は、縦割りではなく一体の会社であることを伝え、チャレンジを掲げ、そして2026年の経営方針を「全方位“シンカ”」としました。

一方向ではなく、全方位。“シンカ”には、真価・進化・新化・深化・親化という意味を込めています。これまでの取り組みをより深く磨き込み、時代に必要な新たな手法を取り込みながら、事業を本質的な価値へと結び直し、船の舳先としてこれからも挑戦し続けることで、お客様から選ばれ続ける会社へと変化して参ります。そして、この統合報告書が、皆さまとの新たな循環の始まりとなることを願っています。

# 会宝産業のあゆみ

創業以来57年。私たちは、静脈産業の確立を目指して絶えず挑戦を重ねてまいりました。自動車解体業から、持続可能な循環型社会を創造する企業へと舵を切った、変革の歴史です。

国内事業

1969年  
有限会社近藤自動車商会設立



1998年  
現在地に本社移転



1992年  
会宝産業に社名変更

2005年  
KRA (Kaiho Recyclers Alliance) システム開発

1969

2000

2020

2026

海外事業

1991年  
輸出事業開始

2007年  
IREC (International Recycling Education Center) 設立



2010年  
中古エンジン品質規格「JRS (ジャパン・リユース・スタンダード)」策定

2007年  
資本金5700万円に増資

2008年  
農業事業開始



2014年  
UAEに現地法人 KAIHO MIDDLE EAST (FZE) 設立

2019年  
インドのアビシェイクグループと合併会社 Abhishek K Kaiho Private Limited 設立



2022年  
資本金を8200万円に増資

2025年  
八街倉庫 (千葉県) 稼働



2020年  
中古エンジン品質規格「JGES (ジャパン・グッド・エンジン・スタンダード)」策定

2024年  
ケニアに現地法人 KAIHO EAST AFRICA 設立



## 会宝産業の強み

会宝産業は約半世紀の社史のなかで、つねにフロンティアスピリッツを忘れず自らを進化させてきました。その強みの源泉は「船の舳先になる」という覚悟です。業界や地球環境の変化が激しい中で、一歩前に踏み出し、勇気を持って先陣を切り、持続可能な未来のために取り組みを進めてきました。未来に生きる子どもたちに美しい地球を残すために、私たちの挑戦はこれからも続きます。

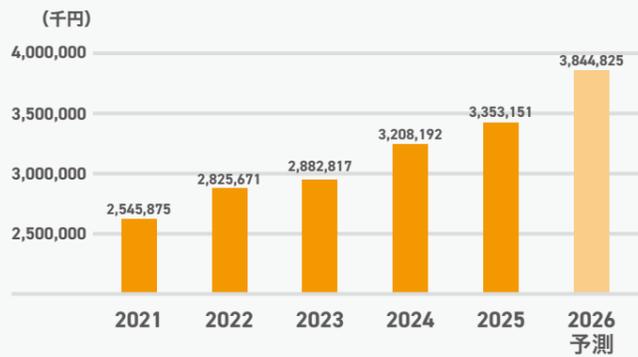
## 価値創造モデル

会宝産業は「自動車のあとしまつを通して日本・世界の環境に貢献する」ことを存在意義としています。自動車は人々の生活を豊かにする一方で、世界では使用済み自動車の違法廃棄や環境汚染といった地球規模の問題があります。これらの問題を解決し、地球環境をより良くしていくことが、私たちの使命です。適正な中古部品の流通を促進し、限りある資源の循環に取り組みます。さらに、その実現を支える自動車リサイクルのノウハウを国内外に普及させるとともに、その技術と知識を担う人材の育成にも力を注いでいます。これらの取り組みにより、「動脈産業」と「静脈産業」が一体となって資源を循環させる「循環産業」を創ることを目指しています。

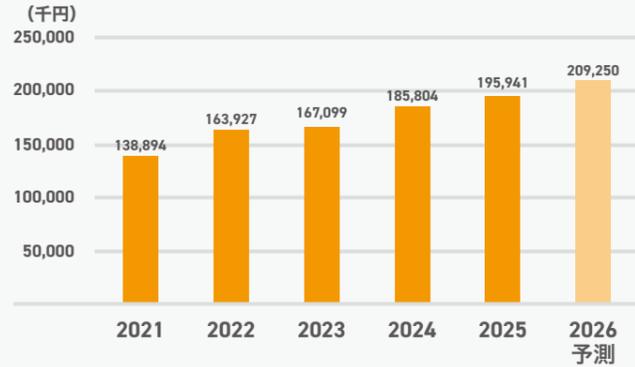
## 価値創造

### 財務ハイライト

#### 売上高

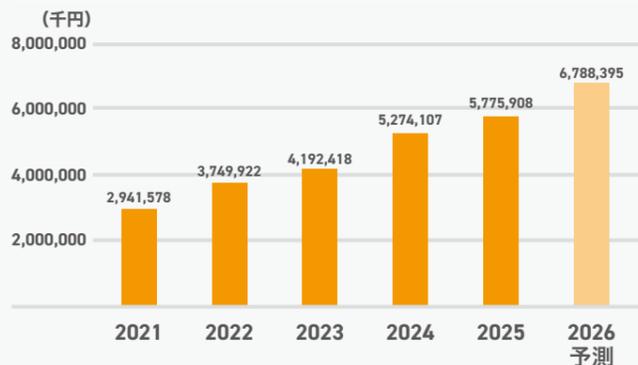


#### 経常利益



#### 取扱高

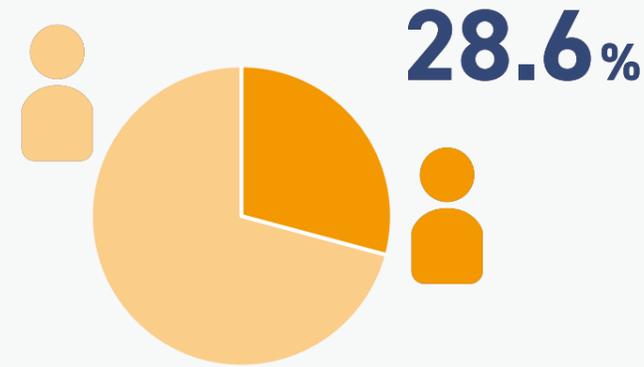
※ 売上高とオークション事業の他社出品分流通金額の合計金額



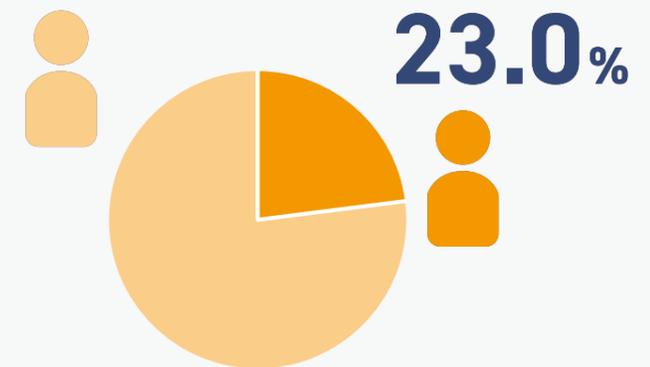
## 価値創造

### 非財務ハイライト

#### 女性社員比率



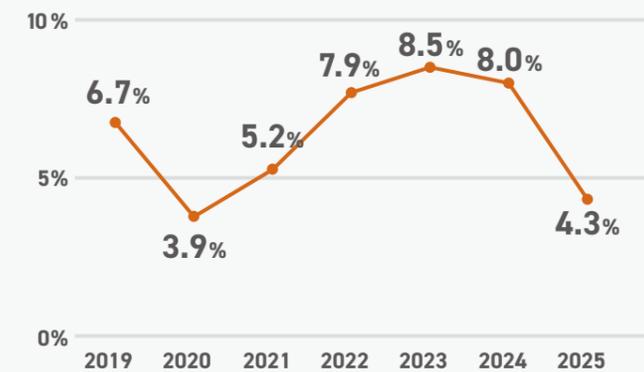
#### 外国籍社員比率



#### アライアンス加盟社数



#### 離職率



#### 社内研修費用



#### 海外リサイクル技術研修受講者数



# 成長戦略

## 長期に目指す姿と未来に向けて取り組む事業領域

私たちは、自動車リサイクル事業だけでなく、独自開発したリサイクル事業者向け業務基幹システム「Kaiho Recyclers Allianceシステム (KRAシステム)」の開発、さらに中古自動車部品・中古自動車のオンラインプラットフォーム「ePartsWorld」「eCarsAuction」を構築し、世界展開を目指しています。さらに、自社で培った自動車リサイクル技術を世界に提供すること

で、各国におけるリサイクル資源の国内循環を構築し、グローバルなサーキュラーエコノミーの実現に貢献しています。こうした事業活動を支えるのは、自ら考え行動し、他者に喜びと感動を届けるプロフェッショナルの育成です。会宝産業は、このような人材とともに、地域・社会・地球全体に価値を創造する企業として、持続的な成長を目指します。

## 戦略1. リサイクル業 × グローバルオンラインプラットフォームへ

### 進化し続ける独自基幹業務システム - KRAシステム -

当社は、「ePartsWorld(イーパーツワールド)」 「eCarsAuction(イーカーズオークション)」の2つのオンライン販売プラットフォームを運営し、同業他社様の販売促進サポートを開始しました。世界中のお客様に安心して購入していただけるプラットフォームを構築していく上で、そのシステムの中核をなすのが、KRAシステムです。このシステムは、使用済みとなった自動車の仕入から生産、販売までのプロセスを一元管理し、製品の品質情報・履歴情報、トレーサビリティを担保する基幹業務システムです。当社が培ってきた業務ノウハウや効率化の仕組みを、20年以上かけてこのシステムに詰め込み構築し、2017年にクラウドシステムとしてローンチすることで、会宝リサイクラーズアライアンス(KRA)メンバーにも利用しやすい環境とな

り、現在は全国43都道府県123社(2026年2月時点)のメンバー企業様にご利用いただいております。本システムは、AI画像認識技術を活用し、またQRコードによる個別管理を導入することで、車輛・部品の仕入・在庫管理を簡便にするとともに、生産後の商品管理を、リユース部品だけでなく、スクラップ素材の在庫・販売管理も可能にする業務基幹システムです。

今後は、国内、海外の中古車・部品価格相場に基づくダイナミックな車両仕入価格の査定機能や仕入・販売時における顧客成約率を高めるためのCRMシステム、自動車部品の純正部品番号データベースなどの他社システムとの連携機能を強化し、データに基づく経営を支援することで、アライアンス企業の業績向上に貢献できるよう努めてまいります。

### グローバルリサイクル部品流通プラットフォーム - ePartsWorld -

「ePartsWorld」は、世界最大の中古自動車・リサイクル部品・新品部品の越境ECサイトです。旧来、海外バイヤーは、部品の買付のために日本の入国ビザを取得し高い渡航費を支払って、来日していました。「ePartsWorld」をご利用いただくことで、世界各地からお客様が求める商品をオンライン上で注文し、購入することができます。多言語・複数通貨に対応しており、海外からのアクセスや注文のしやすさを重視しています。本サイトの特徴は、現車の状態から部品を選択して注文できることに加え、解体後もすべての部品のトレーサビリティ情報を担保している点です。これにより、海外バイヤーは安心して商品を購入することができます。当社は2022年から「ePartsWorld」の運営を開始し、

2024年までの2年間で輸出売上が141%増加、取引国は中東・アフリカ・中南米を含む90か国に上っています。そして、2025年からは海外からの膨大な部品需要に答えるために、日本全国のアライアンスメンバー出品を受け入れ、世界中のバイヤーが日本全国の中古自動車・リサイクル部品の在庫データを閲覧・発注できる仕組みとして運用を開始しました。2025年のアライアンス流通金額は、約2億7千万円まで成長しました。



### 世界とダイレクトに繋がる、次世代のグローバル中古車オークション - eCarsAuction -

「eCarsAuction」は、トラックやバス、重機、商用車などを売却したい法人と、世界90か国以上・1,377社の海外バイヤーをダイレクトに繋ぐ中古車インターネットオークションです。専用アプリを活用することで、車両をオークション会場へ輸送することなく、自社の保管場所に置いたまま手軽に出品することができます。

従来の中古車流通では、売却したい法人と日本国内の買取業者が相対で取引し、その後輸出や、国内オークションを通して、海外バイヤーが落札、輸出をしていました。

「eCarsAuction」は国内の売り手と、海外バイヤーを直接つなぐことで、売り手はより高く、買い手はより安く買えるようになりました。2025年は、取扱高約4億円まで成長しました。



### 日本最大の自動車リサイクル部品「輸出特化型現物入札会」 - 千葉入札会 -

「千葉入札会」は、2017年8月から当社の千葉営業所で開催されている、輸出向けエンジンを中心とした中古自動車部品の入札会です。日本全国のリサイクラーズメンバーから毎週約1,000アイテムが出品され、110社、300名以上の海外バイヤーが入札・購入されています。購入者は、日本国内で営業を行う海外バイヤーを中心に、日本全国のリサイクル企業へ訪問、買付するコスト・手間を省き、会場に集まる多様な商品の現物を確認できるため、安心して入札・購入することができます。また、日本国内で営業する海外バイヤーのみならず、海外に居住するバイヤーによる現地からの入札も行われて

います。一方、出品者は、千葉入札会を利用することで、海外バイヤーとの個別の価格交渉の煩雑さを解消することができます。中古自動車部品の希少性という特性を活かし、日本全国から「ここでしか見つからない掘り出しもの」が集まる日本最大の中古自動車部品の入札会となった当事業によって、販売量と販売価格の最大化を実現します。2025年は、取扱高約25億3千万円まで成長しました。

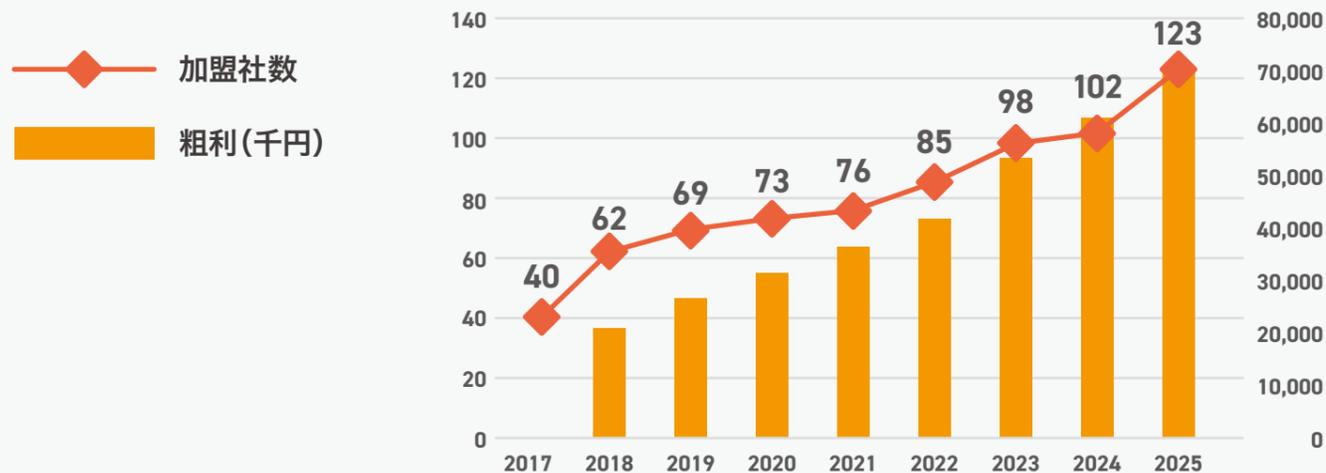


### 戦略2. 国内循環産業の拡大

#### 競争から協調へ。 - アライアンス事業 -

アライアンス事業は、当社の世界約90か国への販売ネットワーク・データ・ノウハウを活かし、複数のサービスを国内の同業企業へ提供しています。2026年2月時点で、全国123社の企業にご利用いただいています。当社が独自に開発した「KRAシステム」をメンバー企業に公開し、過去の輸出販売実績・相場情報の閲覧、廃車査定時の収益予測、国の自動車リサイクルシステムへの電子マニフェスト移動報告の自動化や当社運営の「ePartsWold」

「eCarsAuction」「千葉入札会」などの販売プラットフォームとの出品連携を含めた様々なサービスを利用することができます。また、情報共有と人材育成の機会として、毎月約10回の情報発信や、年間約10回の勉強会を開催し、業界知見の普及に努めています。当社は本事業を通じて、自動車リサイクル業界全体の収益性向上と社会的価値の創出に貢献してまいります



### 戦略3. 海外循環産業の拡大 ~世界中のクルマに、最後まで価値を~

#### グローバルリサイクル事業

##### 自動車リサイクル技術の世界へ

世界では、適切に処理されない廃車が投棄され環境汚染につながっています。そこには、適正な法規制・解体知識の不足、有害物質の管理・処理インフラの未整備などの課題があります。会宝産業は世界中の行政官・職業訓練校・民間企業へ向けた自動車リサイクル技術研修プログラムを開発し、環境配慮型の自動車リサイクル技術に加え、リユース部品の精緻な解体・検品技術や工場の立ち上げ支援までを含む総合的な研修プログラムを提供しています。自治体・企業・教育機関など幅広い組織に対して技術移転を行い、世界各地で適

正リサイクルの普及と産業基盤づくりを支援しています。2025年までに累計14カ国500名以上の方々へ研修を提供してきました。



##### 国際自動車リサイクル教育センターIREC (International Recycling Education Center)

「国際リサイクル教育センターIREC(アイレック)」を2007年に開設し、日本に限らず海外からも研修生を受け入れ、技術ノウハウの提供を行ってきました。



#### 実績

2010年	ブラジル、アルゼンチン、メキシコ、コロンビアより政府・保険会社から14名
2012年-2013年	ナイジェリアの地方政府と民間企業より35名
2013年	コンゴ民主共和国の大学より8名
2014年	フィリピンの保険会社より8名
2016年	ブラジルのミナスジェライス州の大学より教授が7名
2017年-2019年	マレーシアの環境省、交通省、教育省、道路交通省などから34名
2021年	ベトナムより10名
2022年	マレーシアの行政府より7名、ケニアより大学教授が3名と民間企業より2名
2023年	ウガンダの職業訓練大学の講師2名、ウガンダにて学生100名
2024年	中国の民間企業から3名、ウガンダの職業訓練大学の講師2名、ウガンダにて学生100名
2025年	ケニアの職業訓練大学の講師2名、学生150名、タンザニアの職業訓練大学の講師2名、学生50名

合計14カ国539名

## グローバルリサイクル事業の戦略拠点、インドで循環型社会の基盤構築を目指して

Abhishek K Kaiho Private Limited (AKK) は、2019年に会宝産業とインドの Abhishek Group が設立した自動車リサイクル事業を担う合弁会社です。ハリヤナ州における初の政府認定自動車リサイクル工場として、インド国内における廃車の適正処理および循環型社会の基盤構築を推進しています。インドは世界人口1位、世界第3位の自動車製造国として急速な経済成長を遂げており、今後は国際的な自動車製造・流通ハブとしての重要性がさらに高まることが予測されています。会宝産業にとって、同国は自動車部品プラットフォーム事業の成長を支える戦略拠点であり、中期・長期の価値創造において不可欠な地域です。

AKKでは、日本で培った高度な安全基準および環境配慮型リサイクル技術を活かし、インドの使用済み自動車の解体、部品の再利用、資源回収に

至るまで、一貫したリサイクルプロセスを提供し、廃車由来の社会問題の解決や現地雇用創出といった社会的インパクトを生み出しています。また、高品質な資源回収およびリユース部品の供給を通じてインド国内産業の資源循環に寄与するとともに、リユース部品を南アフリカやガーナなどの第三国市場へ輸出する体制を構築しています。



## グローバルオークション事業

### 国際物流のハブ、UAEから世界へ中古自動車部品を届ける

2014年にUAE(アラブ首長国連邦)に子会社としてKaiho Middle East (FZE) (KME)を設立し、中古自動車部品のネットオークションを開始しました。世界最大の中古自動車部品のハブとして知られるUAEシャルジャ首長国のインダストリアルエリアには、3,000社以上の自動車部品業者が集積し、日本をはじめアメリカ・韓国・シンガポール・オーストラリアなど先進国で使われなくなったリユース部品が輸入され、中東・アフリカの様々な国のバイヤーが買付を行い、第三国へ輸出を行うハブとなっています。このエリアで行われる取引のほとんどが売り手と買い手の相対交渉によるもので、品質や商品の履歴情報による相場価格が形成されず、「安かろう悪かろう」の商品が流通するマーケットでした。そこで「KME (Kaiho Middle East) オークション」は、商品の品質・履

歴情報、相場情報を公開し、市場の公正性を高めるプラットフォームを目指し運営しています。

また、様々な国からの自動車部品が集積する地域特性を最大限に活かし、日本で手に入らなくなった年式の古いリユース部品の集荷拠点としての機能を果たし、KMEから南米向けへ輸出版売を行っています。



## 戦略4. 変化に強い組織作り ~変化に強いチームでの経営が、次の成長へ~

### 自走型組織のための取り組み

#### KAIHO 2030 プロジェクト (カイホユニーマルサンマルプロジェクト)

2018年に発足した「KAIHO 2030プロジェクト」は、2030年までに起こり得る社会・技術・ライフスタイルの変化に応じて、個人、会社がどうありたいか、どうあるべきかを描き、バックキャストिंगの思考でその実現に向けての取り組みを実行

に移していくプロジェクトです。チーム構成は健康経営チーム、X Trade(クロストレード) チーム、ファクトリーサイエンティストチーム、メタバースチーム、次世代バッテリーチーム、リエゾンチームです。

#### 健康経営チーム

##### VISION

会宝産業に関わる全ての人々が心身共に健康で幸福を感じる空間のプロデュース

##### 具体的な活動内容

石川県産の食材にこだわり、自家製味噌や梅干しを仕込み、社員食堂で提供する。パワーナップ導入に向けたトライアル、元気UPチャレンジ実施。

#### X Trade(クロストレード)チーム

##### VISION

日本国内外のパートナーや拠点を活用し、世界中の人に自動車部品を届ける

##### 具体的な活動内容

日本国内、海外商材の三国間貿易による販売促進、新規開拓

#### ファクトリーサイエンティストチーム

##### VISION

技術で業界を変え、地球が喜ぶ変化を生み出す

##### 具体的な活動内容

作業手順書の整備、工数データの取得と活用、工場DX化とあとしまつLabの運営

#### メタバースチーム

##### VISION

地球上に住むすべての人たちに「あとしまつ」の大切さを伝える

##### 具体的な活動内容

メタバース空間の工場見学、EXPO2025 大阪・関西万博へ出展

#### 次世代バッテリーチーム

##### VISION

静脈産業としてリサイクル素材を活用したもののづくりを推進し社会に貢献する

##### 具体的な活動内容

再生可能電池の販売と蓄電池稼働管理システムの提供

#### リエゾンチーム

##### VISION

仲間と共に楽しく学び合い、人と世界の「橋渡し」となる活動をする

##### 具体的な活動内容

「会宝アカデミー」社内研修の企画・開催、統合報告書の作成

心身の健康のために、健康経営の取り組み

健康経営優良法人

「健康経営優良法人2025(中小規模法人部門)」に認定され、さらに上位500社に贈られる「ブライツ500」にも3度目の選定を受けました。当社は「会宝産業に関わる全ての人々が心身共に健康で幸福を感じる空間のプロデュース」をビジョンとして掲げ、従業員一人ひとりが心身共に健康で、いきいきと働き続けられるよう、様々な取り組みを行っています。



元気手当制度

当社では、社員一人ひとりが心身共に健康で活躍し続けられる職場づくりを目的として、「元気手当」制度を設けています。全社員を対象に、年間の病欠日数、BMI、健康診断結果に基づいて健康状態をランク評価し、年に1回手当を支給する仕組みです。(ランク区分は表を参照)

心身が健やかであってこそ、仕事に集中し、新しい取り組みにも前向きになれる。病気は薬で治せるかもしれませんが、健康を保つためには本人の意識が必須です。つまりこの元気手当は、本人の自己管理に対する報酬とも言えるものです。毎年、元気手当の支給対象となる社員は全体の約半数ですが、導入から8年間で最高ランクの「超健康」に認定された社員は6名おります。さら

に、本制度により社員の健康意識は大きく向上し、2024年度の当社における1人当たりの医療費は107,690円と、全国平均201,975円の53%となっています。

ランク	元気手当	病欠/年	マーク	BMI
超健康	36,000円	0日	0個	18.5~22.5
健康	24,000円	0日	1個	18.5~24.9
ほぼ健康	18,000円	~1日	2個	18.5~24.9
まあまあ健康	12,000円	~3日	~6個	17.5~25.9
その他	0円			

自動車リサイクル企業が、なぜ農業を? 「あとしまつ」を新しい形で体現する

会宝産業の農業事業は、創業者の問題意識と、人を大切にする経営哲学から生まれました。創業者は、地球環境の悪化が将来的な食糧危機を招くことを危惧し、いかなる状況においても社員や周囲の人々の暮らしを支えられる存在でありたいとの思いから、農業事業を開始しました。食の安定を自らの手で確保することが、社員の命と健康を守ることに繋がるといった考えが、原点にあります。また、「社員の生涯雇用」を

現するという目的もあります。経営理念の一つである「私は生涯、楽しく会宝産業で働く」を体現する取り組みとして、農業事業部は定年後も社員が安心して働き続けられる場としての役割を担っています。さらに、食を通じた健康経営の実践の場としても機能し、自社農園では「栽培期間中農薬不使用」で野菜を栽培しており、社員の食生活の質向上に役立てるとともに、食の大切さを見直すきっかけにもなっています。当社

が農業事業に取り組む背景には、「自動車リサイクル」という本業で培った循環の思想を自然と人の健康へつなげたいという想いがあります。



食を通じた健康経営による社員ウェルビーイングの向上、社内食堂「KAIHO Kitchen」の設立

当社は、社員のウェルビーイング向上と循環型農業の体現を目的とし、社内食堂「KAIHO Kitchen」を設立しました。この社内食堂では、社員が実質無料で昼食を食べることができます。設立の背景には、二つの目的があります。

第一に、社員のワーク・エンゲイジメントを高めることです。休憩時間に社員が集まり、コミュニケーションを深めることで、社員の活力が養われ、心癒される空間を提供します。

第二に、食の安全を通じた健康経営の実践です。社員の健康は持続的な成長の基盤であり、

その根源は食事にあると考えています。メニューには、当社農業事業部が「栽培期間中農薬不使用」で育てた高品質な自社野菜を積極的に活用します。



DX化とコミュニケーションを円滑にするための取り組み

Google Workspaceの全社的な導入

「働き方のありたい姿」をあらためて定義し、その実現に向けたDX戦略の中核としてGoogle Workspaceの全社的な活用を推進しています。従来の業務環境においては、各自の裁量に依存したツール利用により部門間の連携が十分に機能せず、現場で常に生まれる改善の取り組みが会社全体に適切に共有されないことで認識の乖離が生じるなど、組織としての透明性や一体感の低下が課題となっていました。

これらの構造的な課題を解消するため、最新の業務プロセスやその背景を共有できる社内Wikiや社内ポータルサイトの構築により、部門や立場を越えて共通認識を形成できる情報基盤を確立していきます。あわせて、ツールの導入効果を最大化するため、統一的な利用方針をまとめた活用ルールブックを策定するとともに、生成AIであるGeminiの活用を含む体系的なトレーニングを全社に実施し、社員一人ひとりのデジタルリテラシーと自律的な業務改善力の向上を図っていきます。

## 一人ひとりのスキルアップを支援するための取り組み

## 会社の数字を使って統計学を学ぶ、データサイエンス勉強会

全社的なデータリテラシーの向上と、客観的な事実に基づく意思決定文化の定着を目的に、「データサイエンス勉強会」を継続的に開催しています。勉強会では、統計理論の理解にとどまらず、自社が保有する実データを題材としたケーススタディを通じて、業務に直結する実践的な分析力を育成している点に特徴があります。こうした人材育成の取り組みは、個々のスキ

ル向上にとどまらず、データに基づく合理的な提案が自然に交わされ、透明性と建設性の高い組織風土の形成につながっています。社員一人ひとりが情報の信頼性を適切に評価する力を身につけることで、意思決定プロセスの納得感が高まり、分析結果を組織全体の知見として蓄積・活用する仕組みも整備されました。

## 会宝アカデミー

2022年7月より、KAIHO2030プロジェクト「リエゾンチーム」が、社内研修プログラム「会宝アカデミー」の企画・運営を推進しています。会宝アカデミーの目的は、研修を通じて、日々の業務から離れ自分自身を客観的に俯瞰し、一人ひとりが自分と向き合い、新たな気づきを得る時間を提供しています。さらに、参加者同士が学びや発見を共有・最大化することで、部門や役職を超えた連帯感を醸成し、企業文化の強化を図っています。この個々の成長こそが、企業全体の持続的な成長へとつながる原動力となっています。特に、開始当初から約3年半にわたり継続して行っている、人間学をテーマとした読書会、自己理解と他者理解を深めることを目的としたワークや、急速に進化するテク

ノロジーに対応するための生成AIスキルアップ研修など、時代と社員のニーズに応じた多様なプログラムを展開し、全社的なイノベーションと行動変容を促進しています。



## 理念を浸透するための取り組み

## いいね報告

## お客様との感動を共有する「いいね」報告制度

当社が経営の根幹に掲げるのは、お客様の期待以上のことをする会社づくり「感動経営」の実現です。これを体現するため、私たちは2012年より、お客様からの賞賛や御礼の言葉を全社で共有する独自の取り組み「『いいね』報告」プロジェクトを継続して展開しています。

このプロジェクトの目的は、従業員一人ひとりがお客様の声を身近に体感し、その喜びを常に意識することで、さらなるお客様満足を創造

する企業文化を醸成することにあります。

「いいね」報告制度の開始以来、お客様からの温かい評価や具体的な感謝のメッセージは着実に積み重ねられており、2025年12月時点で累計1,652件に達しています。この実績は、地道な活動を通じてお客様との信頼関係が強化されていることの証であり、全従業員にとって大きなモチベーションとなっています。

## 新人プレゼン大会

## プレゼンを通じた主体的な企業理解の深化-新人プレゼン大会

当社では、新卒・中途を問わず入社1年以内の社員を対象に、新人研修後の試用期間の締めくくりとして、毎年6月に新人プレゼン大会を開催しています。「会社の強みの深い理解」と「同期との強固な結束」を目的とし、新人が会社への誇りを持ち、個人の持てる力を最大限に発揮できるよう、新人が「会宝産業の魅力・良い所」をテーマに、プレゼンを行います。評価する役員も新人の潜在能力を発見でき、新人も入社間もない段階で会社のことを徹底的に調べ、仲間と話し合う中で理解を深めることができます。



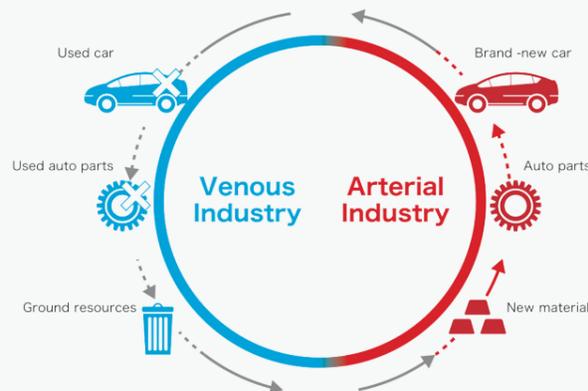
# サステナビリティ経営

## サステナビリティ経営の取り組み「あとしまつ」の責任

会宝産業は、環境方針として「地球規模における資源循環型社会の一翼を担う」ことを掲げています。世界では人口が増加し続け、世界の自動車の保有台数は16億台に上ると言われています。作りっぱなし、売りっぱなしではなく、誰かが「あとしまつ」をしなければなりません。

SDGsは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念としています。SDGsの目標である「作る責任」「使う責任」に加えて、私たちは「あとしまつの責任」を大切に、日本人が持っている利他の精神で、地球規模課題を解決する静

脈産業のパイオニアとして、常に船の触先に立って果敢に挑戦してまいります。



### 環境方針

会宝産業は使用済自動車を適切に分別処理し、部品のリユース、資源のリサイクルを積極的に進めることで環境負荷の低減に取り組みます。また、当社の事業活動が地球規模における資源循環型社会の一翼を担えるよう、この環境方針を定めます。

1. 環境関連法規を遵守します
2. 目的・目標を設定し、汚染を予防します
3. 環境保全に努めます
4. 当社の活動は継続的に改善します
5. 従業員への教育と啓発を行います
6. 情報を公開します

## マテリアリティの特定

当社の理念、地球規模の課題を踏まえ、全てのステークホルダー（お客様、取引先、社員）に対して、ビジネスを通して当社が取り組むべき重要課題を特定しました。

### 【環境・社会マテリアリティ】

マテリアリティ	ストーリー
資源循環と廃棄物削減の推進	<p>自動車は「資源の宝庫」、その価値を極限まで引き出すことで循環型社会の実現に貢献します。リサイクル・リユース率向上を目標に掲げ、リユース部品の販売点数拡大、樹脂リサイクル率の向上を推進します。さらに、自社工場から排出される廃棄物ゼロを目指すとともに、従来は廃棄されていた素材を活用したアップサイクル製品の企画・販売を継続しています。</p> <p>▶▶ p9-11 02 成長戦略 戦略1.リサイクル業×グローバルオンラインプラットフォームへ</p>
気候変動対策 (脱炭素社会への貢献)	<p>脱炭素社会の実現に向けて科学的根拠に基づいた温室効果ガス(GHG)の削減目標を策定いたしました。この目標は、国際的な気候変動イニシアチブである「SBTi」より、世界の平均気温上昇を1.5°Cに抑えるための水準に適合しているとして、SBT認定を取得しております。</p> <p><b>2030年度に向けた削減目標</b> パリ協定が求める高い水準に基づき、以下の目標を達成することをコミットメントいたします。</p> <p>Scope1+2<sup>※1</sup> 2020年度基準で、2030年度までに43%削減</p> <p>Scope3<sup>※1</sup> Scope3による温室効果ガス排出量を測定し、2030年度までに削減</p> <p>※1 Scope 1：自社が所有・支配する施設からの直接排出 Scope 2：自社が購入したエネルギーの製造時における間接的な排出 Scope 3：Scope1,2以外の自社バリューチェーン全体からの間接的な排出</p>
グローバルな技術移転と社会貢献	<p>急速なモータリゼーションが進む新興国・開発途上国において、自動車リサイクルの職業訓練を提供し、使用済み自動車の適正処理の技術移転を行っています。これは単なる技術支援ではなく、現地での雇用創出や産業振興、そして人々の環境意識を高める「人づくり」を伴う活動です。</p> <p>▶▶ p12-13 02 成長戦略 戦略3.海外循環産業の拡大 グローバルリサイクル事業</p>

【基盤マテリアリティ(人的資本関連)】

マテリアリティ	ストーリー
人的資本の最大化 (ウェルビーイングの推進)	<p>企業価値向上の源泉は、社員一人ひとりの情熱と活力にあります。私たちは、社員の健康増進を経営的な投資と捉え、心身ともに健やかに働けるウェルビーイングを推進します。社員が働きやすい環境を作り、組織全体の生産性とモチベーションを高め、持続的な収益増加へと繋げると共に、離職率の低下と優秀な人材の獲得を目指します。</p> <p>▶▶ p14-18 02 成長戦略 戦略4. 変化に強い組織作り</p>
イノベーション型組織への変革とDX/SXの推進	<p>デジタル技術による業務革新(DX)と、サステナビリティを軸とした事業転換(SX)を両輪とし、既存の枠組みに捉われない柔軟なビジネスモデルを再構築します。この変革を支えるのは、変化を恐れず挑戦し続けるイノベーション型組織です。適応力を高め、常に時代の要請に応え続ける、しなやかで力強い組織体質への転換を目指してまいります。</p> <p>▶▶ p14-18 02 成長戦略 戦略4. 変化に強い組織作り</p>

1. 環境

サステナビリティへの取り組みが深化する中、当社はTCFDとTNFDが、無視できない極めて重要な経営課題であると認識しました。サステナビリティ開示基準(ISSB/SSBJ)やTCFD・TNFDの枠組みに沿った戦略的検討を行う上で、現在、全社的な意識改革の一環として、両提言の目的と要求事項に関する集中的な学習を開始しました。

長期戦略策定に向けたリスク・機会の特定プロセス

持続可能な社会の実現と企業成長を両立させるため、以下の4ステップを通じてリスクと機会の抽出を推進しました。今後は、本プロセスを通じて抽出したリスクおよび機会について、国際的なフレームワークに基づく情報開示を行うとともに、これらを長期経営戦略へと統合することを目指してまいります。

**STEP 1**  
社会・自然資本との接点の可視化

当社のサプライチェーン全体を鳥瞰し、地域社会や自然資本との接点を詳細に洗い出しました。気候変動による物理的影響や、生物多様性への依存度・影響度を把握するため、事業活動がどのプロセスで自然資源を活用し、環境に負荷を与えているかを明確化しました。

**STEP 2**  
生成AIを活用した先進事例の多角的分析

生成AIを駆使して先行優良企業のTCFD・TNFDレポートを精査しました。各社のサプライチェーンやリスク・機会の抽出ロジックを分析し、自社に適用可能な要因をリストアップしています。AIを活用した効率的なベンチマーク分析により、グローバルな開示潮流に合致した「リスクが機会に転じる臨界点」や「機会がリスクへと変質する条件」などの高度な知見を習得しました。

**STEP 3**  
3C分析による自社固有のリスク・機会の抽出

抽出した事象を、市場(Customer)、競合(Competitor)、自社(Company)の3Cフレームワークに落とし込み、会宝産業独自の強み・弱みと照らし合わせました。単なる事象の列挙ではなく、他社の競合状況や顧客ニーズの変化を多角的に分析することで、環境変化が自社の競争優位性にどう影響するかをニュートラルに評価しました。

**STEP 4**  
MECEによる網羅的検証と重要度特定

各部門から提示された要素を統合し、MECE(漏れなく、重複なく)の視点で全体像を俯瞰しました。収集されたデータに抜け漏れがないか、論理的な矛盾がないかを厳格にチェックし、組織として優先的に取り組むべき重要課題を整理しました。

気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の取り組み

ガバナンス

当社は今後、気候変動問題に関する対応方針や重要事項を推進するマネジメント体制を整備してまいります。

戦略

気候関連のリスクと機会について、「移行リスク」「物理的リスク」「機会」として以下内容を特定しております。

●移行リスク

種類	具体的事象
政策・法規制リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 各国の排ガス規制強化</li> <li>◆ 取引先のコンプライアンス強化</li> <li>◆ 新車EV購入のインセンティブ</li> <li>◆ 炭素税・炭素価格制度の導入</li> <li>◆ 生産者拡大責任(EPR)の施行</li> </ul>
技術リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ EV・電動化対応技術への転換による解体・再資源化設備更新</li> </ul>
市場リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 消費者行動・市場構造の変化による原材料・エネルギーコストの上昇、既存市場の縮小</li> </ul>
評判リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ESG評価・TCFD開示への対応要求、ステークホルダー懸念の高まり</li> </ul>

●物理的リスク

種類	具体的事象
急性リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 洪水</li> <li>◆ 火災</li> <li>◆ 台風</li> <li>◆ サイクロン等の異常気象</li> </ul>
慢性リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 降水</li> <li>◆ 気象パターン変化</li> <li>◆ 平均気温上昇、海面上昇</li> </ul>

●機会

種類	主な切り口	具体的事象
資源の効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 交通・輸送手段の効率化</li> <li>◆ 製造・流通プロセスの効率化</li> <li>◆ リサイクル材の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 素材・部品の国内物流ネットワーク構築、LCL、コンテナ占有率計算による物流最適化</li> <li>◆ ヤード内動線の最適化、生産手順の最適化</li> <li>◆ ELV解体時の素材・部品再利用率向上</li> </ul>
エネルギー源	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 低炭素エネルギー源の利用</li> <li>◆ 政策的インセンティブ</li> <li>◆ 新技術の利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 工場での太陽光発電導入・再エネ(Lib)への切替、商品開発</li> <li>◆ 設備の電動化</li> </ul>
製品/サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 低炭素商品の開発・拡大</li> <li>◆ 気候変動対応商品の開発</li> <li>◆ R&amp;D・イノベーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ EV部品のリユース、再資源化技術を活用した認証サービス</li> <li>◆ カーボンクレジット算定システム</li> </ul>
市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 新市場アクセス</li> <li>◆ 公的インセンティブ</li> <li>◆ 資源・地域アクセス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ カーボンクレジット市場への参入</li> <li>◆ 海外ELV制度整備支援(JICA/UNIDO等)、</li> <li>◆ インド・アフリカ市場展開</li> </ul>
強靱性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 省エネ、再エネ対策推進</li> <li>◆ 資源の多様化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 国内外拠点の分散化、保険・BCP強化</li> <li>◆ 再エネ導入による供給安定</li> </ul>

現時点では、これらのリスクや機会に対する定量的データの蓄積や具体的なアクションプランの策定は途上にあります。今後は、これらの特定した課題に対する具体的な対応策を検討していきます。

## 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) の取り組み

### 優先的に管理すべき自然資源の特定

当社の事業領域(自動車リサイクル、農業、ウェルビーイング)において、特に依存度・影響度が高い以下の「自然資源」を優先管理項目として抽出しました。当社は、持続可能な社会の実現に向け、TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)に基づく情報開示に向けて、今後、LEAPアプローチを導入し、自然関連リスクおよび機会の特定を行ってまいります。

### 優先的に管理すべき自然資源

#### リサイクル事業の核となる資源

- 鉱物 ● 金属
- 鉄、アルミ、銅、プラスチック、ゴム 等



#### 農業事業の基盤となる生命の源泉

- 土壌 ● 水
- 生物多様性



#### 社員の健康とウェルビーイングを支える環境要素

- 空気 大気質



### TNFDに基づく情報開示に向けて

# LEAP approach



## 2. 社会

### 豊かな社会・未来に向けた取り組み

#### 地域とともに進める環境啓発活動 - 「会宝リサイくるまつり」の開催 -

地域社会とともにリサイクルの価値を共有する取り組みとして、2011年より体験型環境イベント「会宝リサイくるまつり」を継続的に開催、これまでに24,000人以上の方々にご来場いただきました。本イベントは、日常生活では触れる機会の少ない自動車リサイクルの現場や資源循環の仕組みを、子どもから大人まで楽しみながら学んでいただくことを目的としています。リサイクルを「知識」として伝えるだけでなく、実際に「見て・触れて・体験する」ことで、資源を大切に使う意識や環境配慮行動につなげることを重視しています。当日は、くるまの解体ショーや使用済み部品を活用した体験プログラムを通じて、資源循環の仕組みを分か

りやすく伝えていきます。あわせて、チャリティー企画や不要品回収を実施し、環境啓発と社会貢献を結び付けた取り組みを行っています。



#### 令和6年能登半島地震復興支援

NPO法人ユナイテッド・アースと連携し、現地のニーズを踏まえた支援物資の提供や被災地の清掃・復旧作業など、地域に寄り添った支援活動を継続的に実施しています。また、会宝リサイくるまつりでは、能登半島地震以降、能登島・輪島物産展の開催や復興支援チャリティーオークションを実施し、売上を能登地域の復興支援金として寄付しています。あわせて、社員の忘年会を能登地方の温泉旅館で実施するなど、現地での活動や消費を通じた継続的な復興支援にも取り組んでいます。



## 安全衛生方針

当社は、「安全は何よりも優先する」というスローガンの下、従業員の安全と健康の確保を重要な経営課題として位置づけています。その実践の一環として、毎月開催する労働安全衛生委員会において、労働安全衛生に関する基本的な討議を継続的に行っています。具体的には、長時間労働者の発生状況や過重労働防止に向けた対策、労働災害の発生状況およびその経過、再発防止策の検討、ならびにメンタルヘルス不調者への対応や予防策について定期的に確認・議論しています。現在は健康管理など衛生面を中心とした討議が多いものの、今後はリスクアセスメントの強化などを通じ、

安全面に関する議論の一層の充実を図っていきます。また、年間を通じて季節性や事業特性を踏まえたテーマを設定し、従業員の健康リスク低減に向けた取組みを推進しています。年初にはストレスチェック結果の共有、寒冷対策およびウイルス感染予防を行い、繁忙期には過重労働への対応や心身の健康管理に関する注意喚起を実施しています。さらに、花粉症や食中毒、血圧管理、熱中症対策、定期健康診断およびその結果のフォロー、インフルエンザやノロウイルス等の感染症対策など、時期に応じた課題について継続的な討議と啓発を行っています。

### 安全管理体制と教育の徹底

労働安全衛生委員会を中心とした管理体制のもと、安全意識の向上と人材育成を両立させる取組みを進めています。技術者のスキルや安全作業レベルを1～5段階で可視化する制度を導入し、基礎資格の取得状況や経験年数に応じた教育訓練を

体系的に実施しています。これにより、個々の能力に応じた安全教育を行うとともに、キャリア形成の支援にもつなげています。また、社員の意識向上を目的とした安全・技能向上講習を定期的に開催しており、年間で概ね4回の講習を実施しています。

### 改善提案活動による現場の安全性向上

当社では毎月、改善提案活動を行っており、2025年は926件の改善案が社員から寄せられました。その中から、現場の声を起点とした安全性向上を重視し、安全に関する内容を重点的に抽出し、具体的な対策へと反映しています。例えば、工場間の連携によりガソリン抜き取り機の改良を行い、

作業へのガソリンの飛散・不着の防止ができるようにしました。また、拠点(SLC等)の機能移転・拡張を通じて、従来の狭小な作業スペースを解消し、物理的な安全性の確保と作業効率の向上を同時に実現しています。

### 安全実績の管理

事故・災害の未然防止に向け、労災に至らない軽微な事故やヒヤリ・ハット事例を含め、すべての事故報告を数値化して管理しています。直近では年間17件の事象を把握しており、これらのデータ

を継続的に蓄積・分析することで、再発防止策の精度向上と安全管理レベルの継続的な改善に取り組んでいます。

## 外部顧問メッセージ



平本 督太郎  
会宝産業株式会社 上席顧問  
金沢工業大学 情報デザイン学部 経営情報学科 教授

会宝産業が、中堅・中小企業として先駆的に「統合報告書」を発刊されたことを心よりお祝い申し上げます。

現在、私たちは気候変動や地政学リスク、経済の分断といった「ポリクライシス(複合的危機)」の渦中にあります。資源の安定供給が脅かされる中、会宝産業が担う自動車リサイクル事業は、単なる廃棄物処理ではなく、資源を再び社会へと還す「資源循環の安全保障」という極めて重要な社会的使命を帯びています。

中小企業にとって、激変する社会における「リスク」と「機会」を正しく定義し、自社の現在地を客観視することは容易ではありません。しかし、会宝産業は本報告書の作成プロセスを通じて、自らの事業が社会にどのような価値をもたらすのかという「価値創造ストーリー」を磨き上げ、対話の場に立たれました。

この真摯な姿勢こそが、会宝産業が大切にされている「船の舳先」というパイオニア精神の体現に他なりません。自らが先陣を切って道を示す姿は、日本の、そして世界のサーキュラーエコノミーを牽引する中小企業の希望の光となるはずです。

日本が誇る「もったいない」の精神と高度な技術力が、この報告書を通じて世界の共通言語として世界へ発信されることで、日本の中小企業のさらなる飛躍と世界における持続可能な社会の実現に繋がることを確信しております。

# 財務サマリー

## 業績推移と2026年度予測

2021年度から2025年度までの実績において、売上高は25億4,587万円から33億4,946万円へと着実に成長を続けています。2026年度は、さらなる事業拡大を見込み、売上高38億4,482万円を予測しています。

特にプラットフォーム事業は、2021年度の実績8,644万円から、2025年度には5億3,101万円へと成長しました。2026年度は、本事業を成長の柱と位置づけ、売上高10億円を計画しています。

## 利益指標と資本効率

経常利益は、2025年度実績で1億9,594万円を確保し、2026年度は2億925万円を計画しています。売上高に対する利益率は約5%台で推移しており、安定した収益性を維持しています。

## プラットフォーム事業を支えるシステム投資計画

会宝産業は、2020年のプラットフォームへの転換決定以降、累計約3億円のシステム投資を段階的に実施してきました。2026年度においても約7,000万円の継続的な投資を計画しており、以下の3軸を中心に機能を強化します。

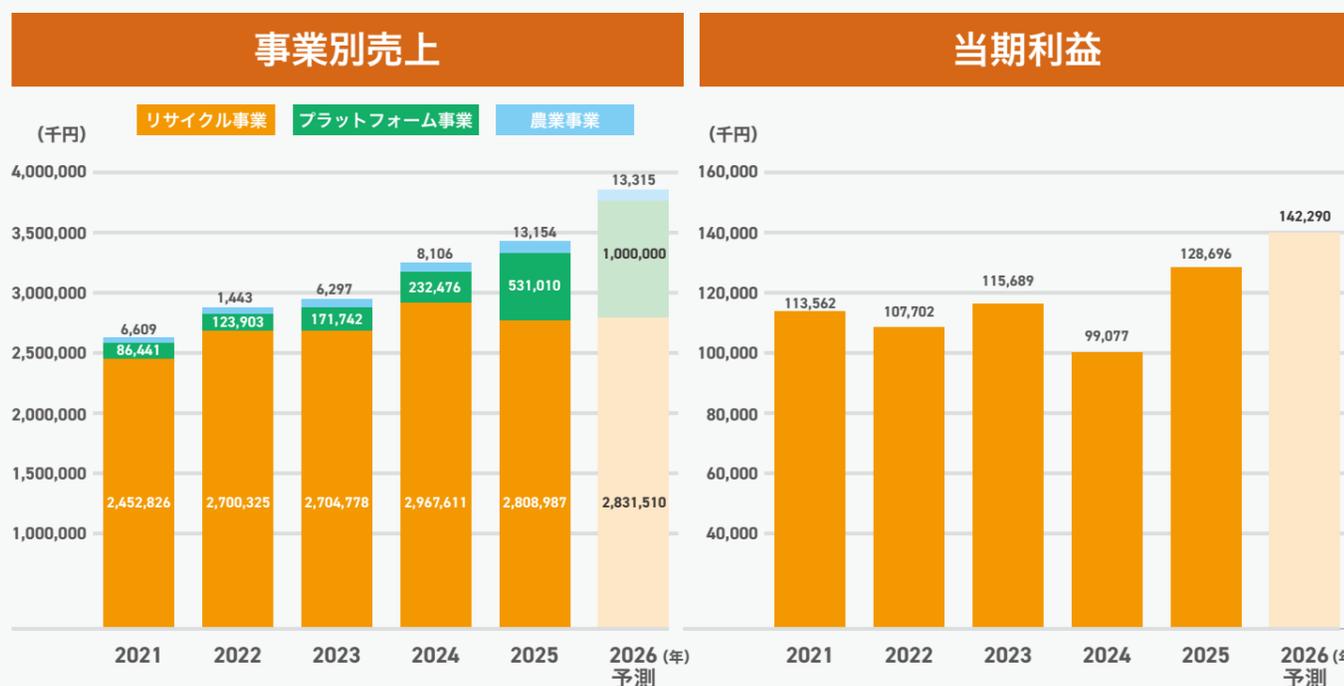
- **物流・販路の拡大(ePartsWorldの進化)**  
従来のコンテナ単位(FCL)取引に加え、小口配送(LCL)対応や海外拠点でのB2C販売サイトを構築し、世界中のエンドユーザーと直接繋がる販売網を拡充します。
- **現場の知能化と効率化**  
既存設備の1/10以下のコストで実現した「車両一括撮影システム」の展開や、AIによるコーションプレート・車検証の自動読取APIを提供します。これにより、パートナー企業の入力負荷を大幅に軽減し、プラットフォーム上のデータ蓄積を加速させます。
- **動脈産業との連携(上流へのリーチ)**  
「純正品番検索機能」の追加やディーラー向け「下取車両管理システム」の提供により、車両がリサイクル段階に入る前の情報を捕捉し、資源循環の最適化を図ります。

## 財務基盤の健全性と新工場投資の妥当性

財務の安全性を示す自己資本比率は、2021年度の39.9%から2025年度実績で58.1%へと向上しました。2026年度予測では60.9%に達する見込みです。現在計画している「新工場投資」については、以下の点から財務的に十分実行可能であると判断しています。

- **強固な自己資本**  
60%を超える自己資本比率により、大規模投資に耐えうる安定した資本構成を実現しています。
- **安定したキャッシュ創出**  
成長性の高いプラットフォーム事業の収益貢献により、投資原資となる内部留保の着実な蓄積が進んでいます。

	2021	2022	2023	2024	2025	2026予測
全社売上	2,545,875	2,825,671	2,882,817	3,208,192	3,353,151	3,844,825
リサイクル事業・その他	2,452,826	2,700,325	2,704,778	2,967,611	2,808,987	2,831,510
プラットフォーム事業	86,441	123,903	171,742	232,476	531,010	1,000,000
農業事業	6,609	1,443	6,297	8,106	13,154	13,315
経常利益	138,894	163,927	167,099	185,804	195,941	209,250
当期利益	113,562	107,702	115,689	99,077	128,696	142,290
営業利益率	5.2%	5.5%	4.9%	5.4%	4.9%	4.9%
自己資本比率	39.9%	46.3%	52.1%	55.6%	58.1%	60.9%



コーポレートデータ

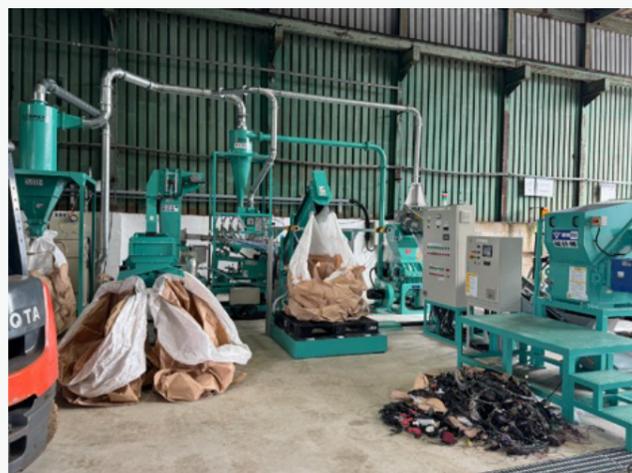
会社名	会宝産業株式会社
創業	1969年5月
代表者	代表取締役社長 近藤高行
所在地	〒920-0209 石川県金沢市東蚊爪町1丁目25番地 TEL.076-237-5133 FAX.076-237-1950
事業内容	<p><b>自動車リサイクル・中古自動車部品の輸出・販売</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車リサイクル事業(国内、海外)</li> <li>中古車、使用済自動車の買取</li> <li>中古自動車部品、中古車の販売、輸出</li> <li>自動車リサイクル技術者の教育・研修</li> <li>農業</li> </ul>
資格	<p><b>産業廃棄物収集運搬業許可</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石川県 許可番号 第01709063169号</li> </ul> <p><b>産業廃棄物処分業許可</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金沢市 許可番号 第06020063169号</li> </ul> <p><b>自動車リサイクル法 解体業許可</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金沢市 許可番号 第20603000080号</li> </ul> <p><b>自動車リサイクル法 破砕業許可</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金沢市 許可番号 第20604000080号</li> </ul> <p><b>自動車リサイクル法 引取業者登録</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金沢市 許可番号 第20601000080号</li> </ul> <p><b>自動車リサイクル法 フロン類回収業登録</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金沢市 許可番号 第20602000080号</li> </ul> <p><b>古物商許可</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石川県公安委員会 第51102-000-6881号</li> </ul> <p><b>労働者派遣事業許可</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>派17-300307</li> </ul>

社屋敷地	本社工場:6,000㎡ SLC(輸出部品出荷センター):3,400㎡ 研修センター:1,200㎡
車両プール	第1プール:2,900㎡ 第2プール:4,000㎡
取引銀行	株式会社北國銀行 金石支店 株式会社北陸銀行 東大通支店 株式会社三井住友銀行 金沢支店
関連団体	<p>会宝パーツサービス有限会社 石川県金沢市東蚊爪町1丁目25</p> <p>アップガレージ石川小松店 石川県小松市長田町口35-1 TEL. 0761-48-4499 FAX. 0761-48-4498</p> <p>アップガレージ金沢店 石川県金沢市上荒屋1丁目222番地 TEL. 076-220-6216 FAX. 076-220-6217</p> <p>アップガレージ富山店 富山県富山市上袋730-1 TEL. 076-425-2866 FAX. 076-425-2851</p> <p>アップガレージ富山魚津店 富山県魚津市大光寺1721 TEL. 0765-32-3022 FAX. 0765-32-3025</p>
営業所	千葉営業所 千葉県四街道市大日2082-6
海外事業所 合併会社	<p>ABHISHEK K KAIHO RECYCLERS PRIVATE LIMITED 【OFFICE】 1, Under Hill Lane,Civil Lines DELHI Central Delhi DL 【FACTORY】 7W58+HH Fatehpur, Haryana, India</p> <p>KAIHO EAST AFRICA LIMITED Atalantis Business Park-D31,ICD,Masai Road, P.O.Box:8296-00100 Nairobi Kenya Landline:(+66)-2-116-0165</p> <p>KAIHO MIDDLE EAST (FZE) 【OFFICE】 X3-33, Sharjah SAIF ZONE, U.A.E 【YARD】 P.O.Box:69937 Industrial Area No.3 Sharjah-U.A.E</p> <p>KAIHO INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD. 71 BUKIT BATOK CRESENT #09-09 PRESTIGE CENTRE SINGAPORE</p>
顧問	顧問弁護士 尾張町法律事務所 顧問弁護士 東京あおい法律事務所 顧問 平本 督太郎 顧問税理士 金沢セントラル会計事務所

# 2025年ハイライト

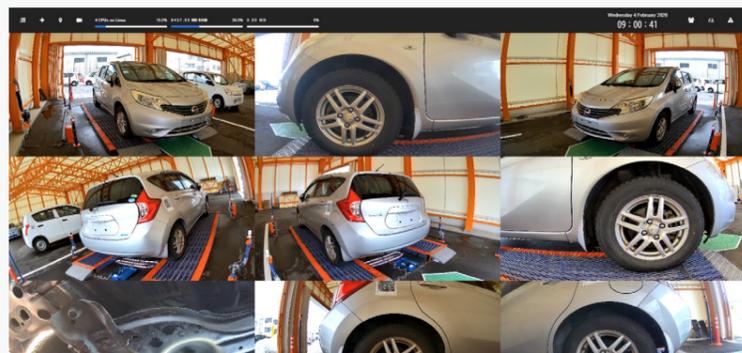
## 銅線ナゲット機の稼働開始

2025年6月より、自社で発生する使用済み自動車(ELV)由来のハーネス(銅線)を分別する為の湿式ナゲットプラントを設置、稼働が始まりました。このプラントは、配線の樹脂部分と銅線、コネクタの端子を分別する事ができ、適切に処理・販売が出来る仕組みを後押しするものです。途上国にハーネスが輸出され、価値の高い銅だけを得るために野焼きをして分別(ダイオキシンや酸性雨の発生を助長)される事が問題視されていますが、技術のある国でしっかり分別する事がその予防にも繋がり、環境負荷の低減にも貢献できます。



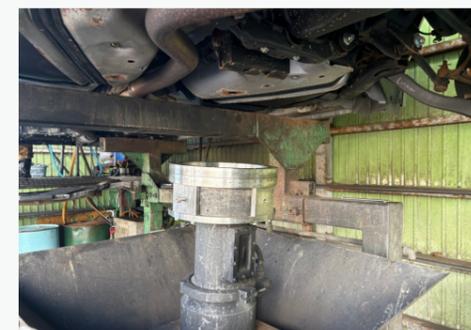
## 車両一括撮影システムの構築

海外顧客へ中古自動車部品を販売するには、「ePartsWorld」への画像登録が必要になります。入庫の多い時期は、1か月に1,000台以上の車両を1台1台輸出部門のスタッフが総出で撮影しており、工数が課題になっていました。そこで工数削減の仕組み構築を行うために、2025年より社内プロジェクト「写真バズPJ」としてスタート。2026年1月より稼働が開始され、写真撮影に係る工数を大幅に削減する事が出来ました。また、既存の一括撮影設備を導入するコストの約1/10以下で導入ができ、今後同業他社への展開も行なっていく予定です。



## 液処理スラストカッターの改良

使用済み自動車(ELV)を処理するうえでの廃液回収において、特にガソリンの飛散が課題になっていました。廃液回収時に、ガソリンが少しでも飛散すると引火や身体に付着した場合には健康被害のリスクも生じます。既存で使用している市販のガソリン回収機具に、地元大学と共同開発した治具を取り付ける事によって、ガソリンの飛散を解消する事が出来ました。



## ナイジェリア政府とのMoU締結:自動車リサイクル構築支援

2026年、当社はナイジェリアにおいて自動車リサイクル事業の事業化可能性調査および技術研修を実施する予定です。2025年には、ナイジェリア国家自動車設計開発評議会(NADDC)代表団が当社を訪問し、循環型リサイクル技術や工場運営について協議を行いました。協議の成果として、同国初となる環境配慮型ELVリサイクル工場設立に向けた基本合意書を締結。今後は調査、設計、人材育成を段階的に支援していくことを目指します。



## EXPO 2025 大阪・関西万博への出展

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)において、UNIDO東京事務所様の企画の一環として、金沢工業大学との産学連携により開発した自動車リサイクルVRゲームを展示しました。本コンテンツでは、車両の調達から部品の生産・販売、雇用創出までの流れをVRで体験でき、自動車リサイクルの仕組みと価値を直感的に伝える内容としました。出展期間(2025年9月23日~29日)中、ブース全体で約8,000名が来場しました。初日にはトークセッションにも登壇し、当社のミッションを発信しました。



# 会宝産業株式会社

〒 920-0209 石川県金沢市東蚊爪町1丁目25番地

☎ 076-237-5133

🌐 <https://kaihosangyo.jp/>

